

〔古今和歌集序〕今すべらぎ〇醒の天の下去ろしめす事よつの時このかへりになんなりぬる

〔堀川院御時百首和歌〕氷室 從四位上行木工頭源朝臣俊賴

すべらぎのみことの末のたえせねばけふも氷室のおものたつなり

〔玉葉和歌集二〕後白河院位御時八十嶋の使にて住吉にまうでよみ侍ける、

從二位朝子

すべらぎの千世のみかげにかくれずはけふ住吉の松をみましや

〔古事記上〕僕者國神名猿田毘古神也所以出居者聞アツカミミコ天神御子〇避々天降坐故仕奉御前而參向之

侍

〔日本書紀三〕十月辛酉〇甲寅年天皇親帥諸皇子舟師東征至速吸ハヤスヒ之門時有一漁人乘艇而至天皇招

之因問曰汝誰也對曰臣是國神名曰珍彥釣魚於曲浦聞アツカミミコ天神子〇神來故即奉迎

〔日本書紀三〕戊午年十有二月丙申長髓彥乃遣行人言於天皇曰嘗有天神之子乘天磐船自天降

止號曰櫛玉饒速日命〇中故吾以饒速日命為君而奉焉夫天神之子豈有兩種乎奈何更稱天神子

以奪人地乎吾心推之未必為信天皇曰天神子亦多耳汝所為君是實天神之子者必有表物可相示

之長髓彥即取饒速日命之天羽羽矢一隻及步鞞以奉示天皇天皇覽之曰事不虛也還以所御天羽

羽矢一隻及步鞞賜示於長髓彥長髓彥見其天表益懷踧躅

○按ズルニ文ニ天神子亦多耳トアリ此稱ハ必シモ天皇ニノミ限ラザルナリ、

〔日本書紀二〕大己貴神〇中乃以平國時所杖之廣矛授二神〇經津主神曰吾以此矛卒有治功天

孫若用此矛治國者必當平安

〔古事記傳十五〕書紀に天孫ともあるは古言に非ずこは天神之御子を例の漢めかしく簡にか

ゝれたるものなり阿麻都加アマツカミ能美古ノミコとよむべし阿米美麻アミミマとよむは非なり、

天神御子